

論文要旨

【目的】 在住外国人女性の妊娠期のセルフケアの向上を促す映像教材の開発を目的とする。言語面はやさしい日本語版と英語版を作成する。具体的には、妊婦健診診査（以下、「妊婦健診」）の受診率の向上、及び、異常な兆候や分娩開始兆候がわかり、適切に病院を受診できることによる産科異常の早期発見と対応を促す映像教材の開発を目的とする。

【方法】 研究デザインは映像教材の開発研究である。第 1 段階で先行研究及び在住外国人母親の支援団体からの意見を基にやさしい日本語版の試作版映像教材を作成した。第 2 段階では、質問紙を用いて、産婦人科病棟で在住外国人女性の支援に携わる助産師、及び日本での妊娠出産経験のある在住外国人女性より、試作版映像教材の評価を受けた。第 3 段階では、評価に基づき内容を改善し、完成版映像教材を作成した。

【結果】 第 2 段階の試作版映像教材の評価では、助産師 17 名と在住外国人女性 13 名から、視覚教材としての適切性、内容としての適切性、教材としての有用性の 3 つの点において概ね良好に評価された。全体として、助産師よりも特に在住外国人女性からの評価が高い傾向にあった。映像教材の効果として、イメージ化と理解しやすさ、不安の軽減、行動への動機づけを実感する意見があり、特に妊婦健診の模擬映像への評価が高かった。改善点として映像の時間をできるだけ短くして見たい映像を選択できる構成とする指摘や、助産師からは全てが日本語であることを危惧する意見が挙げられた。映像教材の活用場所への意見では、病院の妊婦健診や母親学級が多く、次いで役所が多かった。また、映像教材の多言語化や不妊治療等の他の内容への展開の要望も挙げられた。

第 3 段階では、第 2 段階での評価に基づき改善した完成版映像教材を作成した。映像教材は、1.妊娠の手続きと妊婦健診、2.病院に電話するとき、3.日本の出産、に大きく分け、小項目毎に映像を分割し、見たい映像のみを視聴できる構成とした。イラストと写真を活用したものと、妊婦健診と分娩体位の一部の模擬映像を作成し、字幕と音声ナレーションによる説明を挿入した。誰でもいつでも自由にアクセスし視聴できるように、新たに作成したホームページにアップロードして、ダウンロードも可能な形で公開した。

【結論】 在住外国人女性の妊娠期のセルフケアの向上を促す映像教材において、試作版映像教材は概ね良好に評価され、プロセス評価の段階では妊娠期の在住外国人女性への支援に対する有効性が示唆された。評価に基づき改善した完成版映像教材を作成した。